

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

今 井 智 子

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 美 子

熊 倉 勇 美

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

本号をお届けする頃には、桜の花の便りが届く季節になっていると思いますが、今はまだ季節は冬で、氷雨が降っています。今冬は寒さ厳しく降雪量も例年になく多く、暖かい春の陽光が待たれます。

春は入学の季節であり、平成23年度学校基本調査によりますと大学院在学者数が過去最高の27万2千人を超え、そのうち社会人の占める割合が20.1%に達したそうです。大学院進学率の伸びは理工系で目立ちますが、看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など医療技術系の大学院でも進学者が増えています。学問の進歩が速いこれらの分野で最善の臨床を実践するには、常に最先端の知識・技術を吸収すると同時に自らの臨床を科学的に検証し、それを高めていく技能をもつことが重要です。そのような技能のひとつは研究能力であり、研究を実践することは臨床能力を高めることにつながります。将来、臨床と研究の指導者になるであろう向学心溢れる方々の活躍に心から期待したいと思います。

今号は、原著論文5編が掲載されています。田村氏の論文は最近非常に注目されているALSの神経心理症状を検討しています。河村氏の論文は両耳分離聴検査の音声言語処理にワーキングメモリ容量が関係することを示しています。平島氏の論文は聴覚障害児の会話技能の問題、内山氏の論文は自閉症児の認知特性と発語指導との関係を掘り下げ、外山氏の論文は回復期リハビリテーションの7年間の動向を詳細に分析しています。いずれも貴重な知見が得られた論文であり、皆様に興味深く読んでいただけるものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第9巻 第1号)2012年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2012, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎ 03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)